

## 各種台木における‘山川早生’の生育および収量と果実品質

藤澤弘幸・緒方達志・高原利雄 (果樹試験場カンキツ部口之津)

Hiroyuki FUJISAWA, Tatsushi OGATA and Toshio TAKAHARA :  
Performance of 'Yamakawase' Satsuma Mandarin on Various Rootstocks

極早生ウンシュウミカンは一般に樹勢が弱く、樹勢の維持・強化が経済栽培上の課題とされている。そこで、各種台木が‘山川早生’の生育、収量、果実品質に及ぼす影響を検討した。

## 1. 材料および方法

無加温ガラス室で育成したカラタチ、広葉系カラタチ、ヒリュウ系カラタチ、ラスクシトレンジ、トロイヤシトレンジ、シクワシャーの3年生実生に‘山川早生’を切り接ぎし、1年間養生した後1989年4月に、各台木8樹ずつを玄武岩質土壌の圃場に定植した。定植5年目の1993年から結実させ、毎年10月中下旬に収穫し収量および果実品質を、12月に樹高および樹冠容積等を調査した。施肥・剪定等の栽培管理は慣行法に準じた。

## 2. 結果および考察

定植9年目(1997年)の時点で、樹高、樹冠容積および収量、累積収量は、カラタチ台に比較し、シクワシャー台、トロイヤシトレンジ台で大きく、ラスクシトレンジ台、広葉系カラタチ台はほぼ同等、ヒリュウ台は小さかった(第1表)。樹冠占有面積当たり収量は、シクワシャー台、トロイヤシトレンジ台、ラスクシトレンジ台で高く、ヒリュウ台では低かった。

定植7年目から9年目の果実品質を比較すると(第2表)、シクワシャー台およびラスクシトレンジ台では糖度、糖酸比が低く、果皮色も劣った。トロイヤシトレンジ台および広葉系カラタチ台では糖度、果皮色ともカラタチ台に相当した。ヒリュウ台では糖度、糖酸比が高く、果皮色も優れていた。

以上の結果、弱樹勢の特徴を持つ‘山川早生’において、シクワシャー台、トロイヤシトレンジ台により樹の生育が促進されることが明らかになった。これらの台木では、樹冠占有面積当たり収量が高く単収の向上が示唆されたが、果実品質が著しく劣り問題が大きいと考えられた。ラスクシトレンジ台は、樹の生育、果実品質はカラタチ台に相当しながら、樹冠占有面積当たり収量が高く、優れた特性を示した。ヒリュウ台では果実品質は優れるものの生育が緩慢であり、樹冠占有面積当たり収量も低いことから実用化は難しいと考えられた。なお、本試験に用いた材料は若木の段階であり、引き続き台木特性を調査するとともに、強勢台木については、果実品質向上のための各種栽培管理技術を組み合わせた高品質果実の多収並びに連年安定生産技術を検討する必要がある。

第1表 各種台木における‘山川早生’の生育および収量(1997年)

台木	樹高 (m)	樹冠容積 (m <sup>3</sup> /tree)	収量 (kg/tree)	累積収量 (kg/tree)	樹冠占有面積当たり収量 (kg/m <sup>2</sup> )
シクワシャー	2.1±0.1	7.6±1.7	38.4±8.9	101	9.5±1.5
トロイヤシトレンジ	1.7±0.3	4.6±2.6	24.7±12.3	79	8.2±1.6
ラスクシトレンジ	1.5±0.1	2.6±0.8	19.7±5.7	56	10.1±1.4
カラタチ	1.5±0.2	2.5±0.6	11.6±2.2	61	6.2±1.5
広葉系カラタチ	1.4±0.2	2.3±1.0	8.9±2.6	46	5.4±1.3
ヒリュウ	1.1±0.1	1.0±0.2	5.0±1.8	29	4.8±1.2

注) 数値は、平均値±標準偏差、または、平均値

第2表 各種台木における‘山川早生’の果実品質(1995年~1997年の平均)

台木	果実重 (g)	果皮色z (着色歩合)	糖度 (Brix)	酸度 (%)	糖酸比
シクワシャー	120±5	3.7±0.5	8.0±0.2	1.14±0.04	7.0±0.3
トロイヤシトレンジ	116±4	5.7±1.3	9.0±0.6	1.17±0.07	7.7±0.5
ラスクシトレンジ	119±4	4.6±0.9	8.2±0.3	1.22±0.08	6.8±0.4
カラタチ	113±5	5.7±0.3	9.0±0.2	1.12±0.10	8.1±0.7
広葉系カラタチ	114±5	6.4±0.6	9.3±0.4	1.19±0.07	7.9±0.3
ヒリュウ	106±3	6.6±0.7	10.1±0.4	1.10±0.04	9.3±0.5

注) 数値は、平均値±標準偏差、z1995年~1996年の平均